

レスポンスブル・ケアとは

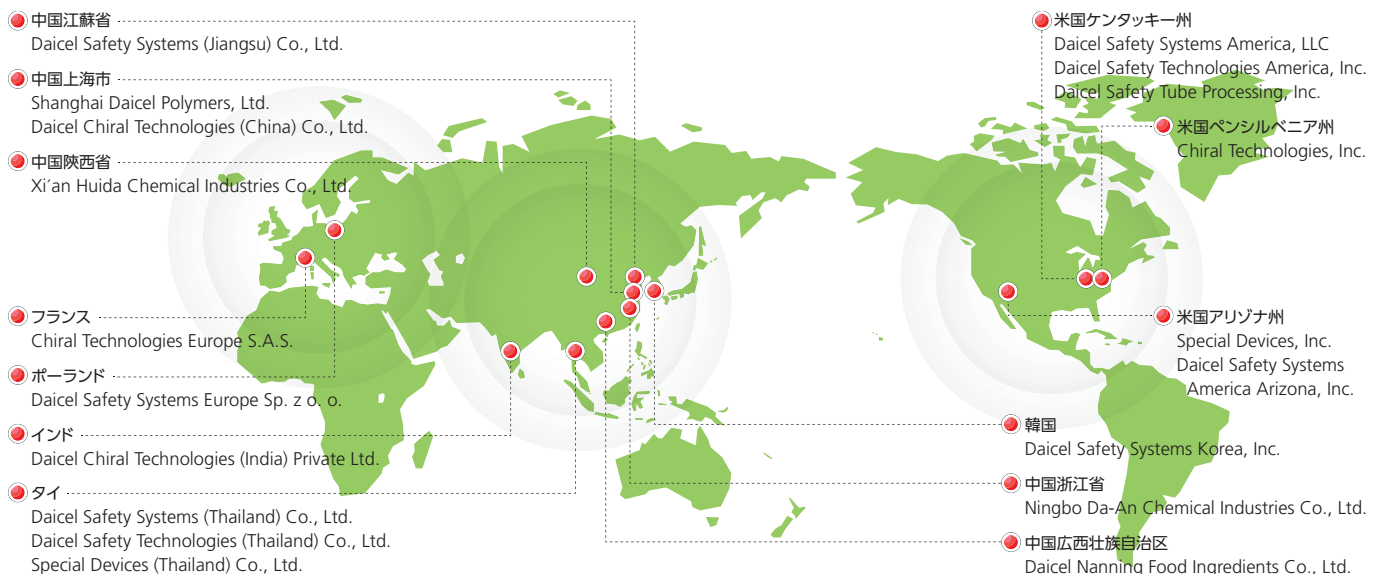
レスポンスブル・ケアとは、化学品を製造または取り扱う事業者が化学品の開発から製造、物流、使用、廃棄に至るすべての過程において、自主的に「環境・健康・安全」を確保し、その成果を公表し、社会との対話、コミュニケーションを行う自主活動のことです。レスポンスブル・ケアは、国際化学工業協会協議会 (ICCA) が推進し、1992年ブラジル地球サミット (国連環境開発会議) の「アジェンダ21」でも推奨されています。日本では、ICCAと連携して1990年に一般社団法人 日本化学工業協会の「環境・安全に関する日本化学工業協会基本方針」のもと、レスポンスブル・ケア活動が開始され、また、1995年に同協会の中に日本レスポンスブル・ケア協議会 (現在、日本化学工業協会と統合されてレスポンスブル・ケア委員会として再編成) が設立され、多くの企業が参加してレスポンスブル・ケア活動を推進しています。



一方、一般社団法人 日本経済団体連合会は、1996年の環境自主行動計画で「化学産業はレスポンスブル・ケアで環境マネジメントを自主管理する」ことを宣言しています。環境省の第4次環境基本計画においても、第2部第9節の「包括的な化学物質対策の確立と推進のための取組」の中に、事業者に期待される自主的な取り組みとして記載されています。

環境・労働安全衛生パフォーマンス集計対象

本集計は、製造または物流に携わる下記の事業場およびグループ企業のデータを対象としています。



なお、Daicel Chiral Technologies (China) Co., Ltd., Shanghai Daicel Polymers, Ltd. を除く海外グループ企業は2016年1～12月のデータです。